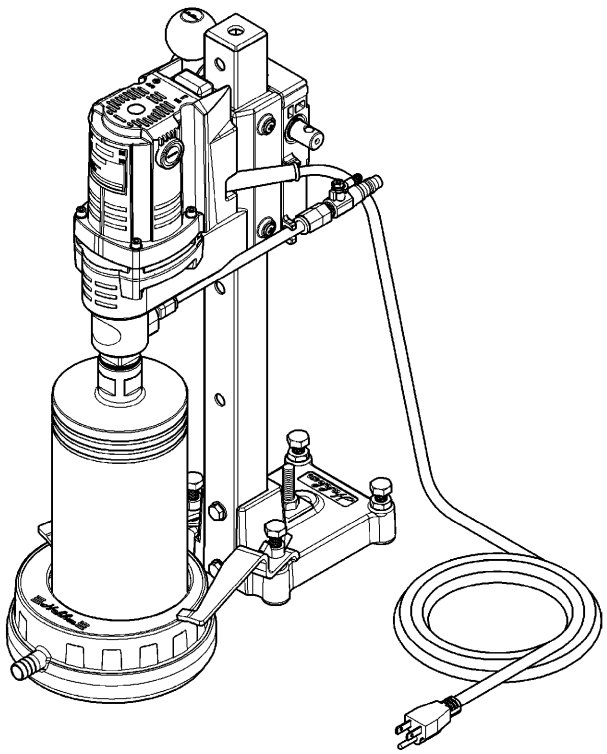
Hakken

ダイヤモンドコアドリル

SPJ－122C
SPJ－122M

取 扱 説 明 書



◎ このたびはお買い上げいただき、ありがとうございました。

◎ ご使用前に、この「取扱説明書」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく安全に使用してください。

◎ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

CONSEC CORPORATION

注意文の「⚠警告」、「⚠注意」、「ポイント」の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠**警告**」、「⚠**注意**」と「**ポイント**」に区分していますが、それぞれ次の意味を現します。

⚠**警告**：誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠**注意**：誤った取扱いをした時に、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

ポイント ： 製品の据付け、使用方法、メンテナンスに関する重要な事項。

なお、「⚠**注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

本文中では、「ダイヤモンドコアドリル」のことを「コアドリル」、「ダイヤモンドコアビット」のことを「コアビット」と記述しています。

目 次

１．警告 および 注意
【１】電動工具の安全上のご注意 …… ２
【２】コアドリル使用上のご注意 …… ４
２．各部の名称 …… ６
３．仕 様（ドリルヘッド） …… ７
４．標準付属品 …… ７
５．用 途 …… ７
６．オプション品（別売） …… ８
７．使用時全体図 および 仕様
【１】□４０ポールベース ＳＢ－４０１－５８０のアンカーによる固定 …… １０
【２】□４０ポールベース ＳＢ－４０１－５８０のバキュームパッドによる固定 …… １１
【３】ノーアンカーベース ＮＡ－６３による固定 …… １２
【４】□４０角度調整ベース ＡＢ－４０１－５８０のアンカーによる固定 …… １３
８．キャリングケース収納状態 …… １４
９．取手（標準付属品）取付け方法 …… １５
10. 使用方法
【１】アンカー施工 …… １６
【２】コアドリルの設置 …… １７
【３】コアビットの取付け …… １８
【４】水処理パッドの取付け …… １９
【５】排水処理の準備 …… １９
【６】給水の準備 …… ２０
【７】穴あけ作業 …… ２１
【８】穴あけ作業終了 …… ２２
11. 作業中のトラブルと対策
【１】作業中のトラブルと対策方法 …… ２３
【２】コアビットがロックした場合の解決方法例 …… ２４
【３】コアビットにセリが生じた場合の解決方法例 …… ２４
12. コア抜きワイヤーの使用方法 …… ２５
13. 保守・点検・修理
【１】保 守 …… ２６
【２】点 検 …… ２６
【３】定期点検 …… ２６
【４】修理について …… ２７
14. 製品の保管 …… ２８

1．警告 および 注意

◎ 火災・感電・けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「電動工具の安全上のご注意」「コアドリルの使用上のご注意」を必ず守ってください。

◎ ご使用前に、この「警告および注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。

◎ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

【1】電動工具の安全上のご注意

⚠ 警 告

1．**指定された用途以外に使用しないでください。**

2．**作業者以外は施工場所へ近づけないでください。**
◎ 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。

3．**施工場所の周囲状況も考慮してください。**
◎ 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
◎ 施工場所は十分明るくしてください。
◎ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
◎ ちらかった施工場所は、事故の原因となります。

4．**きちんとした服装で作業してください。**
◎ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。
◎ ゴム手袋と滑り止めのついた履物を着用してください。
◎ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

5．**保護めがねを使用してください。**
◎ 作業時は、保護めがねを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

6．**無理な姿勢で作業をしないでください。**
◎ 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

7．**油断しないで十分注意して作業を行ってください。**
◎ 電動工具を使用する場合は、取扱方法・作業の仕方・周りの状況など十分に注意して慎重に作業してください。
◎ 回転物には、手や身体を近づけないでください。巻き込まれたり、けがをする恐れがあり危険です。
◎ 可動部分や接続部分などに、手や足を挟まないように注意してください。
◎ 疲れている場合は、使用しないでください。

⚠ 警 告

8．感電に注意してください。
◎ 電動工具を使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。
◎ 漏電遮断器の設置してある電源を使用してください。

9．コードを乱暴に扱わないでください。
◎ コードを持って電動工具を運ばないでください。
◎ コードを引張ってコンセントから抜かないでください。
◎ コードを熱・油・角のとがった所に近づけないでください。

10．指定の付属品やオプション品を使用してください。
◎ 本取扱説明書およびコンセックのカタログに記載されている付属品やオプション品以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。

11．損傷した部品がないか点検してください。
◎ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動し、所定機能を発揮するか確認してください。
◎ 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
◎ 損傷・故障した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。
◎ 取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所に修理を依頼してください。
◎ スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
◎ スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所で修理を行ってください。

12．次の場合は電動工具のスイッチを切り、プラグを電源から抜いてください。
◎ 使用しない、または、修理する場合。
◎ 刃物などの付属品を交換する場合。
◎ その他危険が予想される場合。

13．調節キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。
◎ 電源を入れる前に、点検・調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

14．電動工具は注意深く手入れをしてください。
◎ 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
◎ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
◎ コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所に修理を依頼してください。
◎ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。

15．使用しない場合はきちんと保管してください。
◎ 乾燥した場所で、お子様の手の届かない安全な所または、錠のかかる所に保管してください。

16．不意な始動は避けてください。
◎ 電源につないだ状態で運ばないでください。
◎ プラグを電源に差込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。

⚠ 警 告

17．屋外使用に合った延長コードを使用してください。
◎ 屋外で使用する場合、キャブタイヤコードまたは、キャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

18．作業に合った電動工具を使用してください。
◎ 小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行う作業には使用しないでください。

19．電動工具の修理は専門店に依頼してください。
◎ 本製品は、該当する安全規格に適合していますので改造しないでください。
◎ 修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。
◎ 修理は、必ずお買い求めの販売店または、コンセック各営業所にお申し付けください。

【2】コアドリル使用上のご注意

⚠ 警 告

1．電線管などの埋設物に注意してください。
◎ 電気が流れている電線や電線管などに接触すると感電する恐れがあります。
◎ 壁・床などに穴あけを行う場合は、埋設物のチェックを十分に行ってください。

2．ゴム手袋・ゴム長靴は必ず着用してください。
◎ 本機は水を使用しますので、作業中は必ずゴム手袋・ゴム長靴を着用してください。

3．天井面への作業はしないでください。
◎ 本製品は水を使用するため、天井面への穴あけは水がモータ内部に入り、非常に危険です。

4．高所での作業は関係法令に従って作業してください。
◎ 安全な足場を確保して、足場より1.5m以上での作業はしないでください。
◎ 高所での作業の場合は、十分にスペースのあるしっかりした足場を確保してください。
◎ 高所での作業の場合は、施工場所の下に人を入れないようにしてください。

5．貫通側の安全面に注意してください。
◎ 貫通穴あけ時に切削コアがコアビット内から抜け落ちたり、切削水が漏れたりすることがありますので、人や物にあたらないように、防護対策や処理方法を確実に行い、作業を始めてください。

6．使用電源は銘板に表示してある電源を使用してください。
◎ 表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因になります。

7．ポールベースはしっかり固定してください。
◎ 正しく固定することは非常に重要です。固定がきちんと行われてないと、切削中にガタついたり、かみこんだりして、コアビットが損傷する恐れがあります。

⚠ 警 告

8．水処理パッドは必ず使用してください。
◎ 作業中に水が飛散して、モータ内部に水が入るのを防止するためにも、水処理パッドは必ず使用してください。
◎ 水処理パッドを使用する時は、水漏れがないようにしっかりと取付けてください。

9．回転中のコアビット・メインシャフトには絶対に触れないでください。
◎ 回転中のコアビットやメインシャフトには、手や身体を近づけないでください。巻き込まれたり、けがをする恐れがあり危険です。

10．モータの風穴をふさいだり、風穴に物を入れないでください。

11．異常時にはただちにスイッチを切ってください。
◎ 切削中にコアビットが止まったり、異音を発した時は、ただちにスイッチを切ってください。

12．石綿（アスベスト）は人体に有害です。このような成分を含んだ材料に穴あけをするときは、関係法令に従って防じん対策をしてください。

13．突起物のあるコアビットは、使用しないでください。
◎ 回転物に突起物があると、巻き込まれたりケガをする危険性があります。

14．最大コアビット径を超えるコアビットは、使用しないでください。

⚠ 注 意

1．無理して使用しないでください。
◎ 安全に能率よく作業するために、機器の能力に合った仕様で作業してください。

2．穴あけをする時は必ず給水を行ってください。
◎ コアビットは加熱すると、寿命が短くなり切削能率も低下しますので、必ず給水を行ってください。
◎ 清水以外の水を使用すると、コアドリルの故障の原因となります。必ず清水を使用してください。

3．コアビットが穴あけ面に接した状態で、モータを回転させないでください。
◎ コアビットやコアドリルの破損の原因となります。

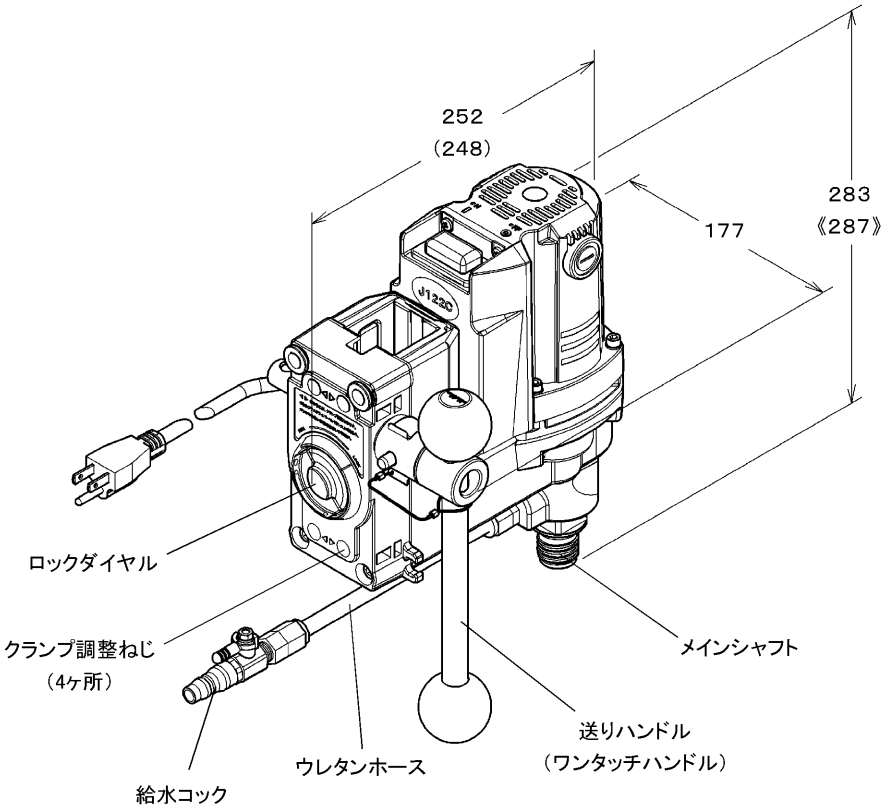
4．穴あけ作業は回転が上がってから行ってください。
◎ 穴あけ作業はスイッチを入れ、コアビットの回転が完全に上がってから行ってください。

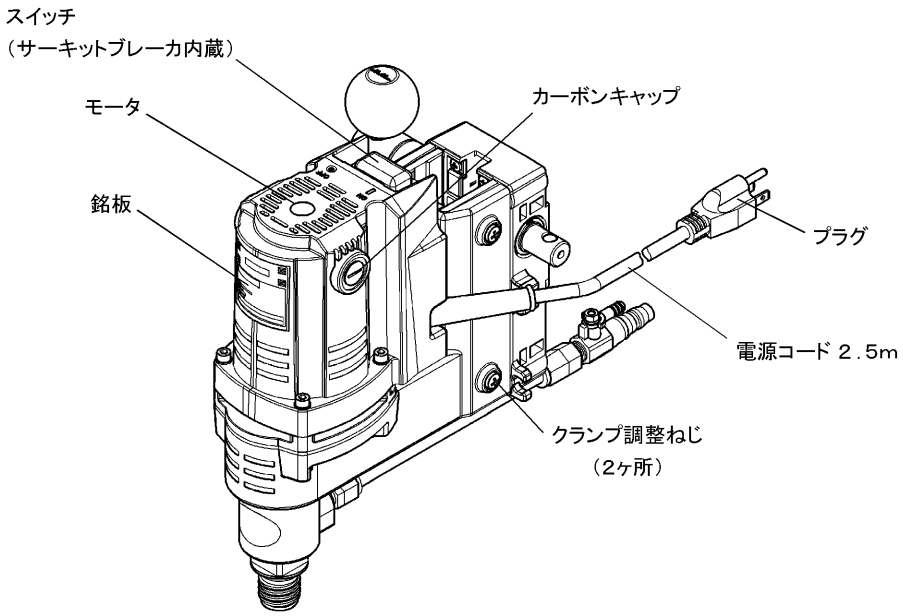
5．穴あけ途中で送りハンドルに無理な力をかけコアビットの回転を止めたり、コアビットをロックさせたりしないでください。
◎ コアビットのチップの破損や、コアドリルの破損の恐れがあります。

6．送りハンドルから手を離す時は、必ずロックダイヤルを「LOCK」にしてドリルヘッドを固定してください。

7．ロックダイヤルを「FREE」にする時は、必ず送りハンドルを持ち、ドリルヘッドが動かないようにして行ってください。

２．各部の名称



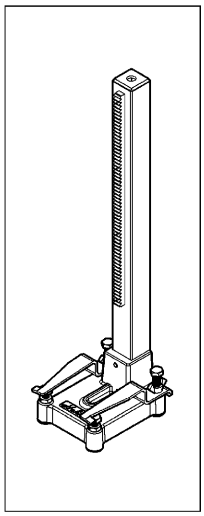


絵はSPJ－122Cです。（ ）内は、ロックダイヤル「LOCK」時の寸法、《 》は、SPJ－122Mです。

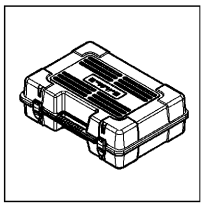
3．仕 様 （ドリルヘッド）

型式名	SPJ－122C	SPJ－122M
モータ	単相直巻整流子モータ	
使用電源	単相交流 50／60Hz 電圧 100V	
定格電流	14A	
最大出力	1500W	
無負荷回転速度	$950min^{-1}$	
適用コアビット呼径	14．5～120mm	
最大コアビット呼径	160mm	
コアビット取付ねじ	Cロッドねじ	M27ねじ
質量（コード除く）	4．9kg	5．0kg

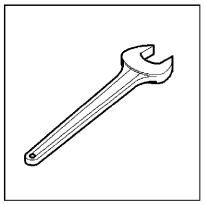
4．標準付属品



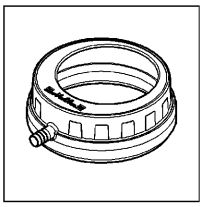
口40ポールベース
SB－401－580
… 1ケ



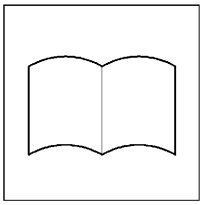
キャリングケース
JC… 1ケ



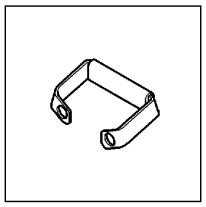
片口スパナ
36mm
… 2ケ
（SPJ-122M）



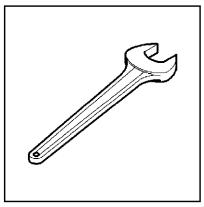
水処理パッド
MS－120JⅡ
… 1ケ



取扱説明書
… 1ケ



取手122C
… 1ケ



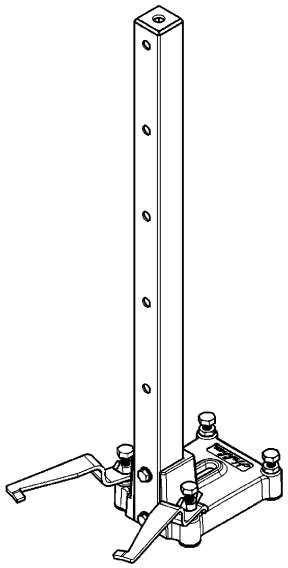
片口スパナ
27・32mm
… 各1ケ
（SPJ-122C）

5．用 途

◎ 道路・ ダム・ 隧道・ 橋梁などのコンクリート穴あけ工事。
◎ テストピースの採取。
◎ ガードレールポスト・ フェンスポスト下穴の穴あけ。
◎ 冷暖房・ 電気・ 電話・ 水道・ ガスなどの配管分野における鉄筋コンクリートの穴あけ。

6．オプション品 （別売）

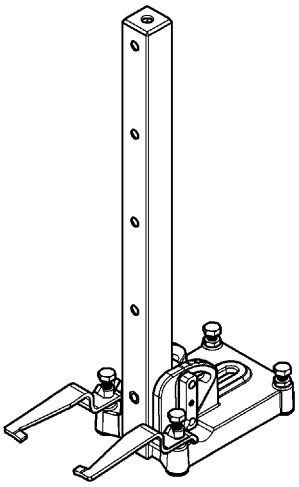
□40ポールベース
SB－401－700

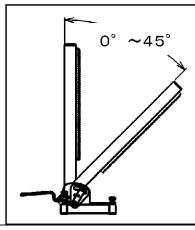


（ 3.6 kg ）

ポールの寸法が□40で、全高700mmのポールベースです。

□40角度調整ベース
AB－401－580

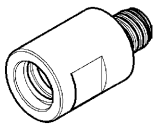




（ 4.2 kg ）

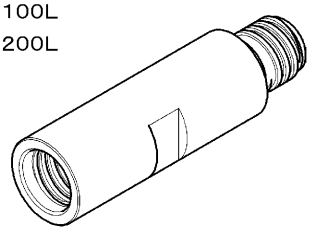
ポールの寸法が□40で、0°（垂直）から45°まで無段階で、角度調整可能なポールベースです。

レジューサ



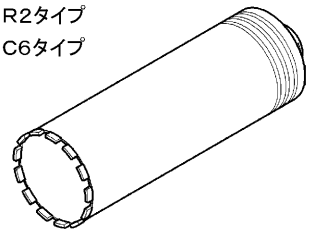
各種コアビット取付ねじに対応できます。

延長ロッド
（Cロッドねじ）
100L
200L



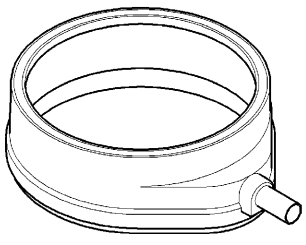
深穴をあける時に使用します。呼び径３２以下には使用できません。

コアビット
R1タイプ
R2タイプ
C6タイプ



３点式ビットよりも薄刃で、一体式のコアビットです。

水処理パッド
MS－160J



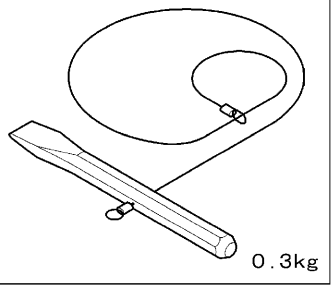
穴あけ作業中、切削水の飛散を防ぎ、集排水できます。呼び径１６０のコアビットまで使用できます。

一体式コアビット寸法表

名称（タイプ）			呼び径	外径×内径 (mm)	有効長 (mm)	全長 (mm)
R1	R2	C6				
●			14.5	14.5×…	250	290
●			19	19×…		
●			22	22×…		
●		●	25	25×…		295
	●	●	27	27×21		
	●	●	32	32×26		
	●	●	40	40×34		
	●	●	52	52×46		
	●	●	65	65×59		
	●	●	70	70×64		
		●	75	75×69		
	●	●	80	80×74		
	●	●	90	90×84		
		●	100	100×94		
	●	●	106	106×100		
	●	●	110	110×104		
	●	●	120	120×114		
		●	130	130×124		
		●	150	150×144		
		●	160	160×154		

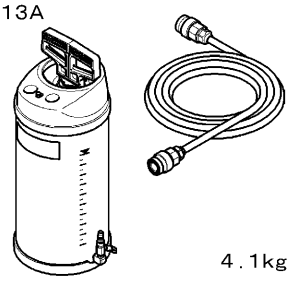
※各タイプ●印の呼び径があります。「全長」にはチップ高は含みません。

コア抜きワイヤー



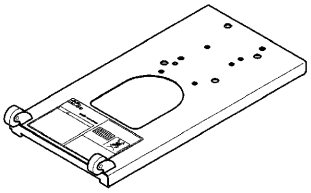
ハンマーといっしょに使用し、切削コアを抜取ります。

給水タンク
T－13A



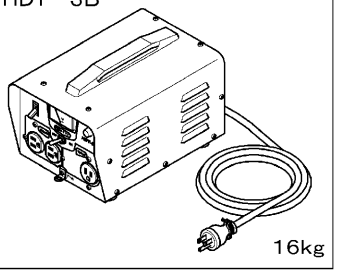
給水の不便な場所で使用します。タンク容量は１３リットルで、空気圧により高所へも注水できます。

ノーアンカーベース
NA－63



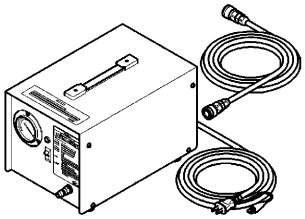
アスファルト道路でのテストピース採集作業に使用します。

ハードトランス（ポータブル変圧器）
HDT－3B



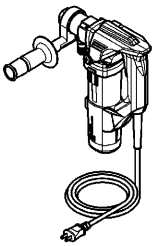
電源電圧が低下している時や、200V 電源を 100V・115V・120V に変更したい時に使用します。

バキュームポンプ
VPM－50V



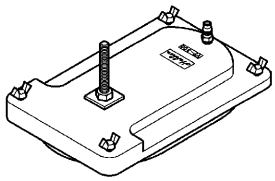
バキュームパッドを吸着させるときに用います。

アンカードリル
ADD－020H

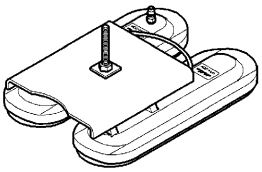


アンカー施工時に使用するドリルです。給水なしで、振動を出さずに施工できます。

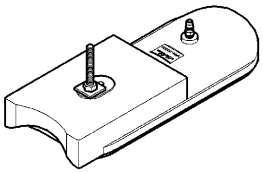
バキュームパッド



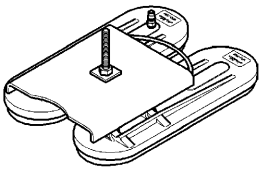
VP－300～700
平　面



VPH－20W
外面R117～平面



VPH－2030S
外面R127～R180

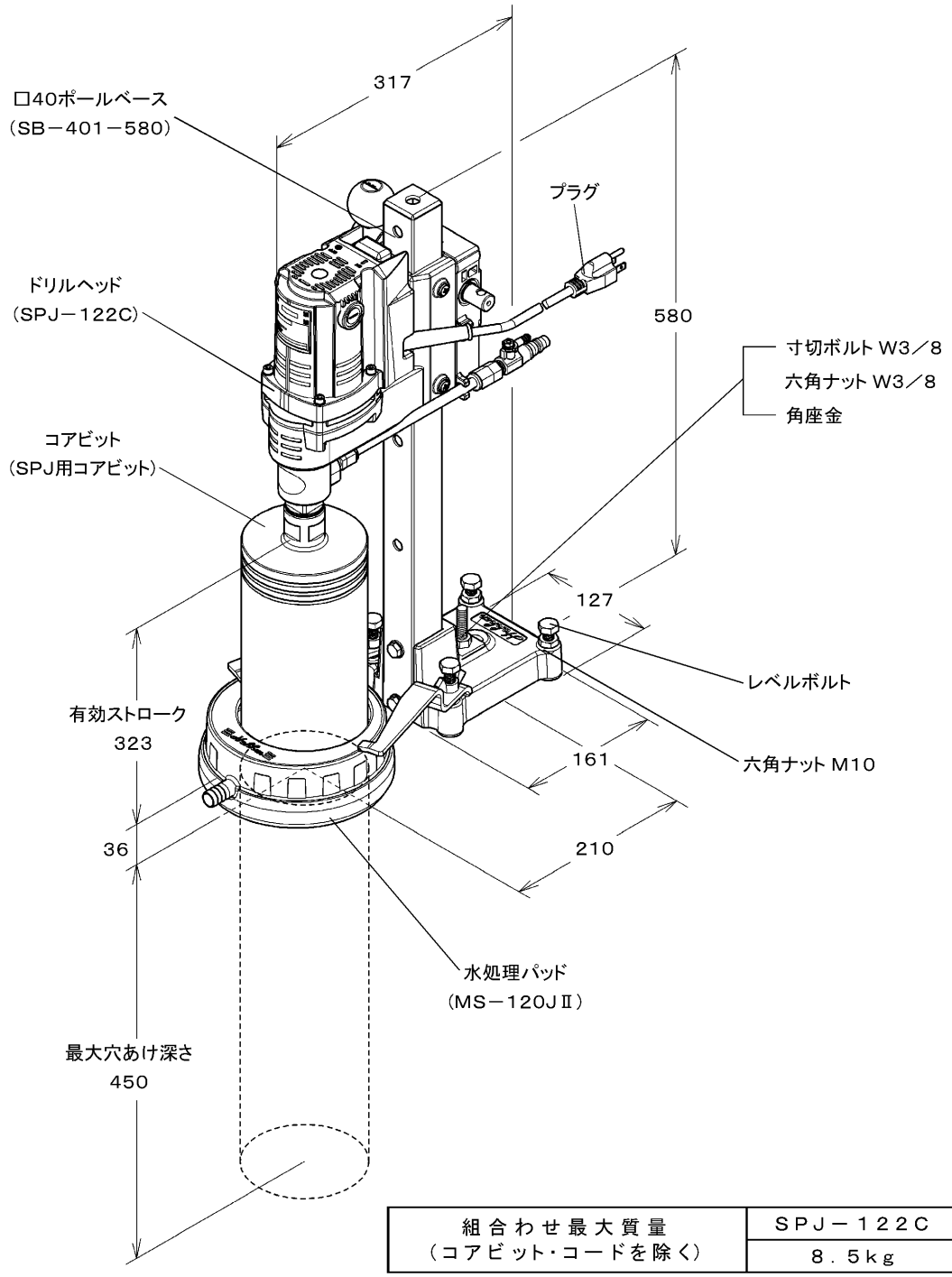


VPU－75W
内面R375～平面

アンカー施工できない場所に、ポールベースを簡易に吸着固定することができます。

7．使用時全体図 および 仕様

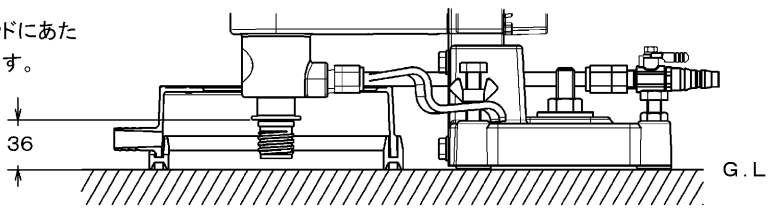
【1】□40ポールベース SB－401－580 のアンカーによる固定



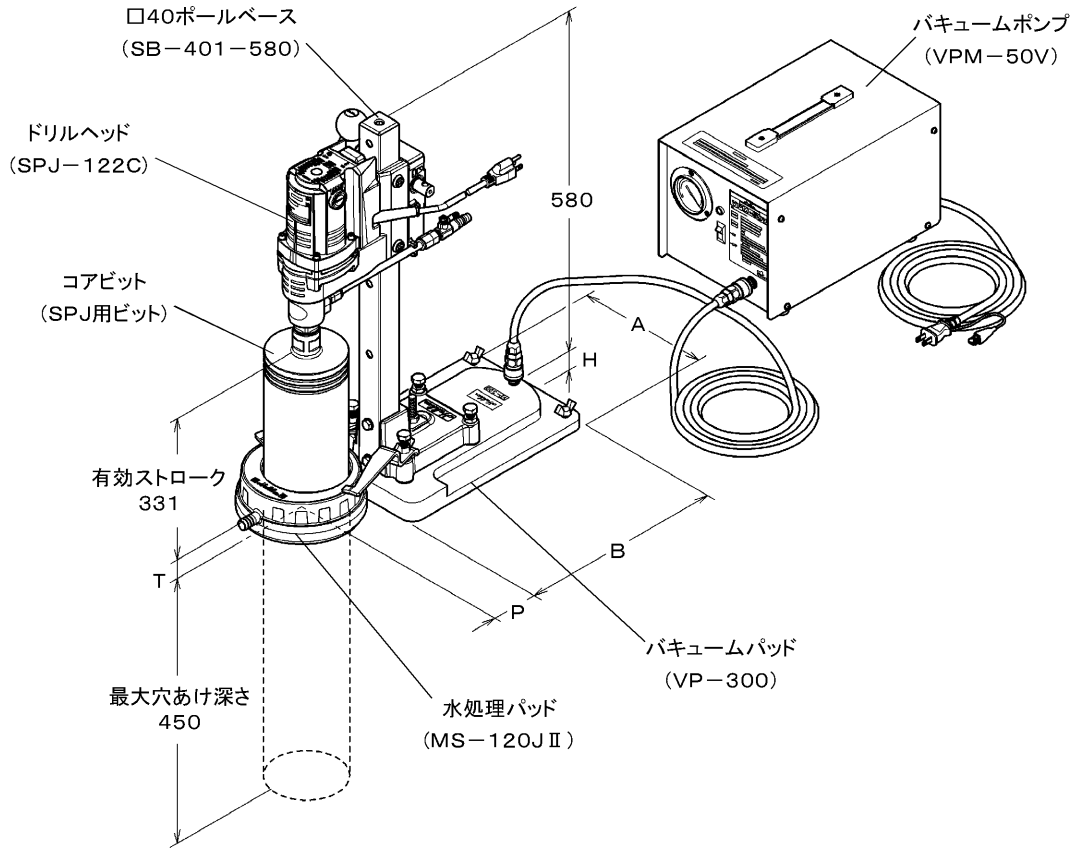
組合わせ最大質量（コアビット・コードを除く）	SPJ－122C
	8．5kg

ストロークエンドにおけるコアビット端面とG．Lの距離の詳細図

※ウレタンホースが水処理パッドにあたり、ストロークエンドとなります。



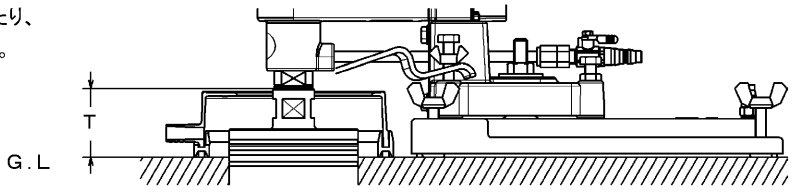
【2】□40ポールベース SB－401－580 のバキュームパッドによる固定



⚠ 注 意
VPH－2030S・VPH－20W・VPU－75WによるR面（曲面）への固定の場合は、水処理パッドは使用できません。

ストロークエンドにおけるコアビット端面とG．Lの距離の詳細図

※ドリルヘッドがベースにあたり、
ストロークエンドとなります。

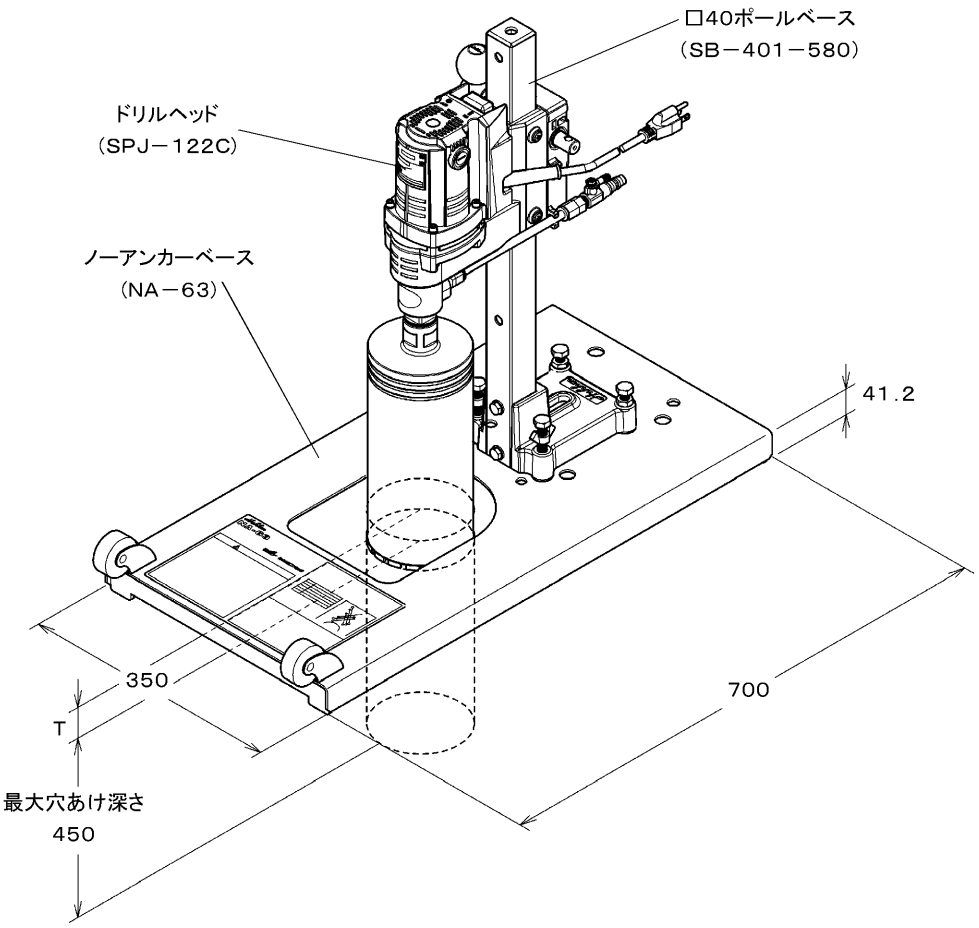


型式名	A x B x H (mm)	T寸法(mm)	P寸法(mm)	吸 着 力	用 途
VP-300	220x340x35	63	※99(+26)	約 3kN	平面吸着
VP-600	300x360x35		※57(+27)	約 6kN	
VP-700	330x400x35		48(+17,-9)	約 7kN	
VPH-2030S	200x500x33	61～68	47～100	約 5kN	外面 R127～R180
VPH-20W	314x420x48～80	76～108	54～80		外面 R117～平面
VPU-75W	314x420x67	95～101			内面 R375～平面

◎ P寸法は、バキュームパッドに水処理パッド（MS－120JⅡ）が接する位置を基準とし、＋はポールベースの前進可能寸法で、－は後退可能寸法です。後退の場合は、水処理パッド（MS－120JⅡ）をはずした時の寸法です。（※は水処理パッドがバキュームパッドに接していない位置です。）

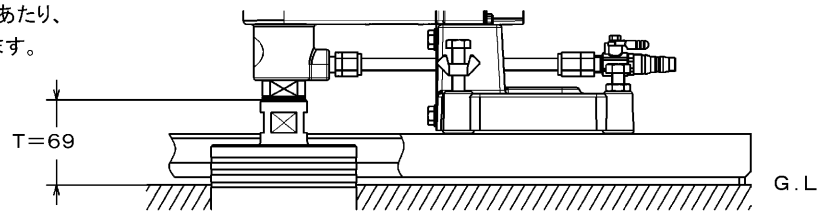
◎ VPH－2030S，VPH－20W，VPU－75Wは、水処理パッドが使用できないので、水処理パッドなしでの寸法です。

【3】ノーアンカーベース NA－63による固定



ストロークエンドにおけるコアビット端面とG．Lの距離の詳細図

※ドリルヘッドがベースにあたり、
ストロークエンドとなります。



ノーアンカーベース NA－63の使用上のご注意

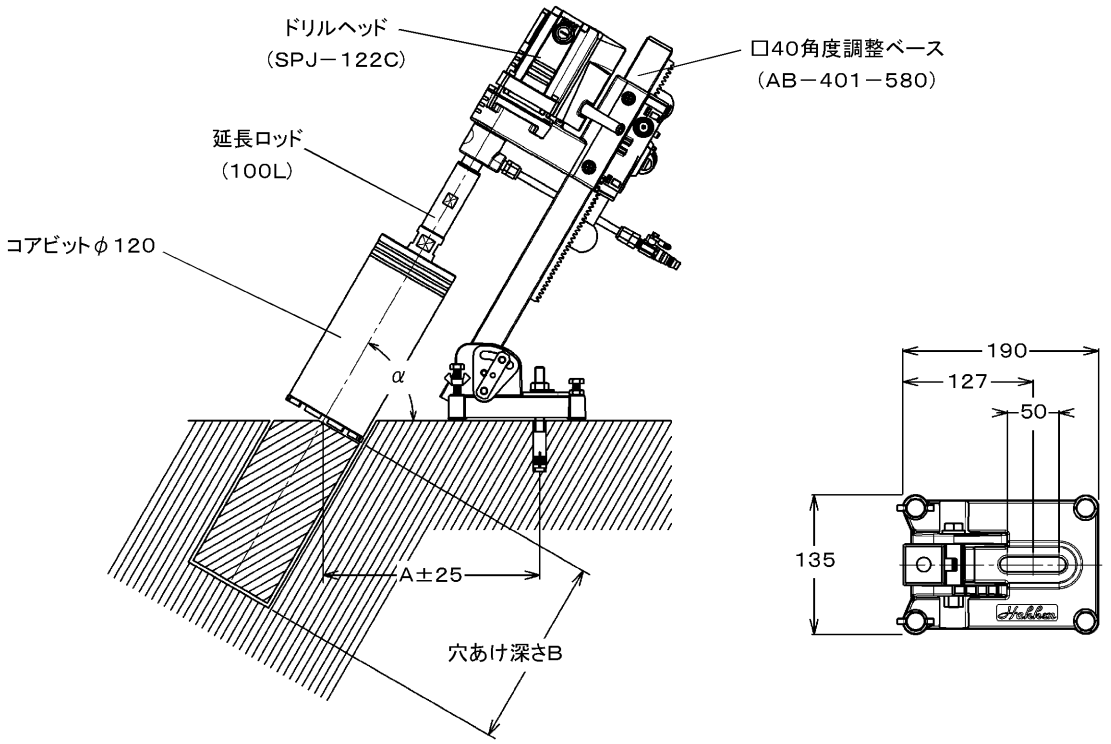
⚠ 警 告

1. アスファルト専用ですので、アスファルト以外への穴あけには使用しないでください。
2. ノーアンカーベースの鋭部で身体を傷付けないように注意してください。
3. 必ず両足でノーアンカーベースを踏んで穴あけ作業を行ってください。
4. ノーアンカーベースが浮上がるほどの無理な切込みは、絶対にしないでください。
5. 急斜面では使用しないでください。

ポイント

ノーアンカーベース NA－63を使用した場合の最大コアビット径は160mmです。

【4】□40 角度調整ベース AB－401－580 のアンカーによる固定



⚠ 注 意
角度αが90度(垂直切削)の時のみ、水処理パッドが使用できます。

角度 α	A（穴あけ位置 ～ アンカー位置）	B（各延長ロッドを使用した場合の穴あけ深さ）		
		なし	100L	200L
90度	249mm	257mm	※	※
80度	253mm	227mm	327mm	※
70度	265mm	195mm	295mm	※
60度	288mm	157mm	257mm	357mm
50度	325mm	107mm	207mm	307mm
45度	352mm	74mm	174mm	274mm

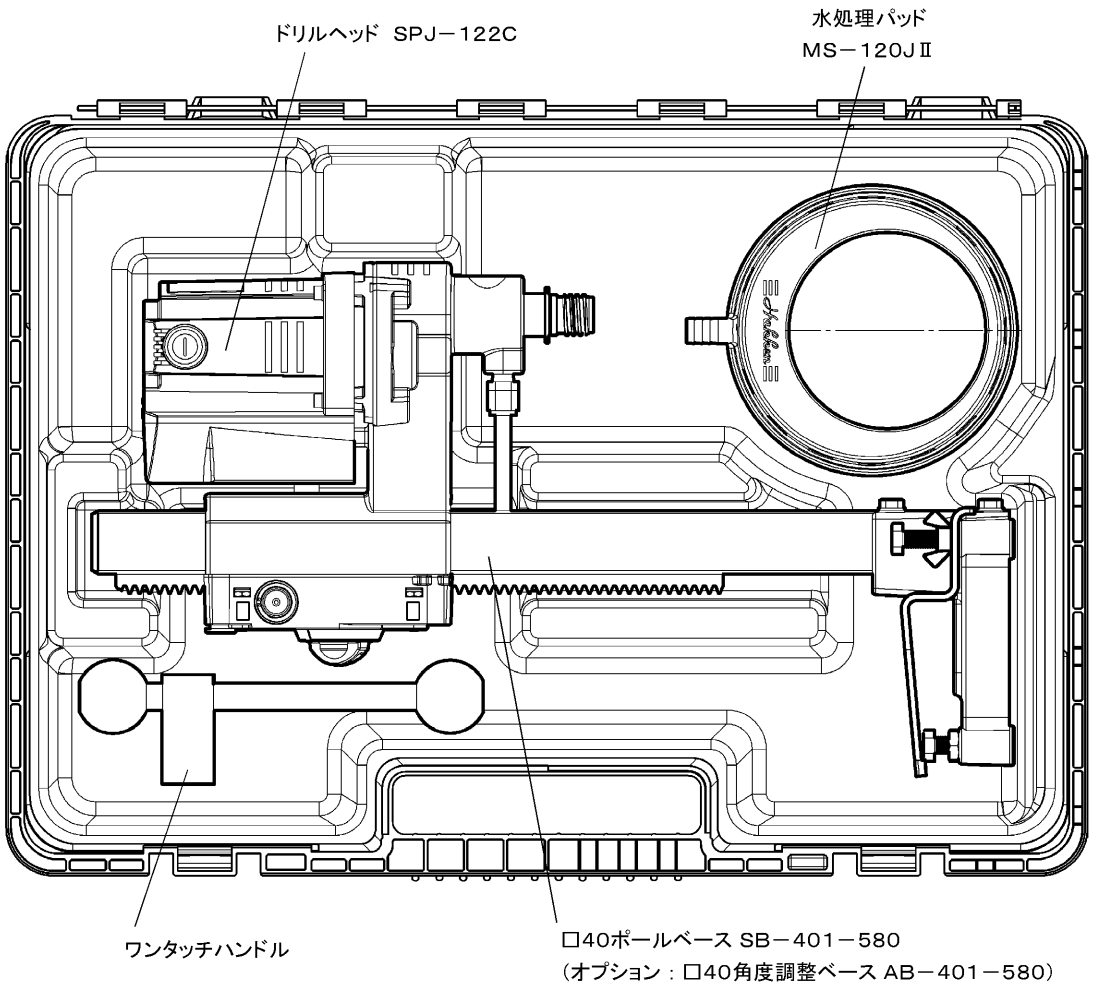
注1）最大穴あけ深さ Bは、上記の組合わせで穴あけを行った場合の深さです。
注2）本表の穴あけ深さは、ビット中心からの深さを表しています。
注3）太枠内の穴あけ深さは、コアビットの有効長を越える深さなので、途中で切削コアを折って取り出し、再切削した時の深さです。
注4）この表は延長ロッドの取付けの可否を示すものであり、実際に、延長ロッドを取付けた状態で切り込み始めると、振れが発生する可能性がありますのでご注意ください。
注5）※では、有効ストロークが足りないため、切り込み始めから延長ロッドの取付けはできません。

8．キャリングケース収納状態

⚠ 注 意
ドリルヘッドのロックダイヤルは「LOCK」の状態で収納してください。

ポイント

1. 工具・ハンドル組等の小物がキャリングケース内で動かないように、スポンジ等で散在防止をし、固定してください。
2. メインシャフト内(給水コックおよびホース内)の水気はよくきり、よく乾燥させてから収納してください。
3. □40ポールベース SB－401－700以上（全高が600mmを超えるもの）は収納できません。
   □40角度調整ベース AB－401－580（オプション品）は収納できます。

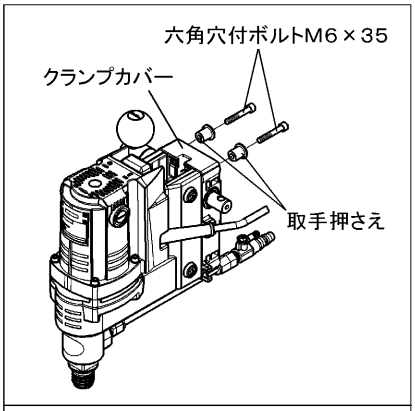


収納状態

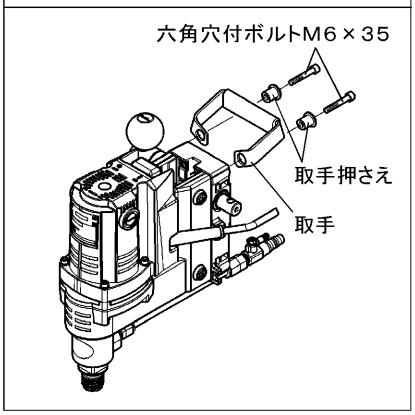
９．取手 （標準付属品） の取付け方法

取手の取付け方法

○ クランプカバーを取付けている六角穴付ボルトM6×35（上側2本）を、六角棒レンチ（5mm）でゆるめ「取手押さえ」（2コ）といっしょに取りはずしてください。



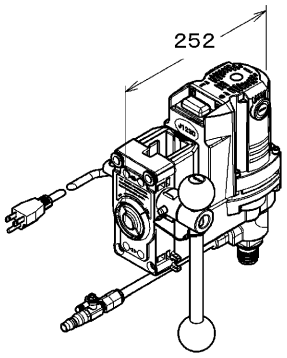
○ 「取手」の取付け穴 に「取手押さえ」（2コ）を差込み、クランプカバーに六角穴付ボルトM6×35（2本）で固定してください。



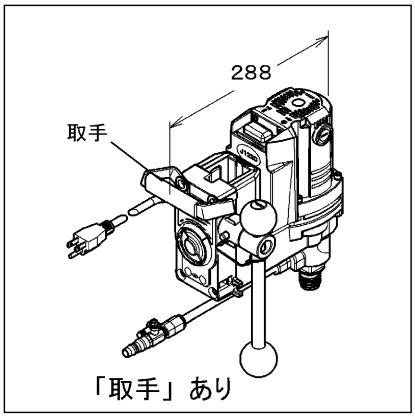
⚠ 警 告

六角穴付ボルトはしっかりと締付けて固定してください。取手を締付け不足の状態で持つと危険です。

ドリルヘッドの奥行は取手を取付けた時、288になります。



「取手」なし



「取手」あり

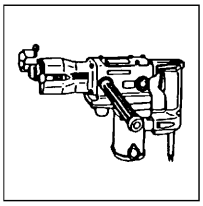
10. 使用方法

◎ コアドリルを固定する方法にはアンカーによる固定、バキュームパッドによる吸着などがあります。
ここでは、□40ポールベース SB－401－580のアンカーによる固定の方法を以下に記します。

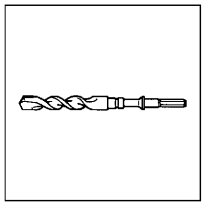
【1】アンカー施工

◎ 使用するハンマードリルの取扱説明書に従い作業してください。

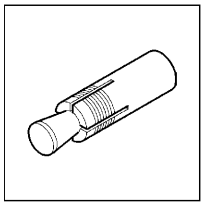
準備するもの



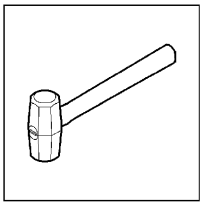
ハンマードリル
… 1ケ



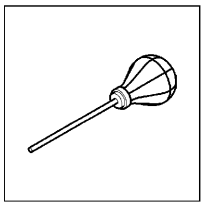
キリ
… 1ケ



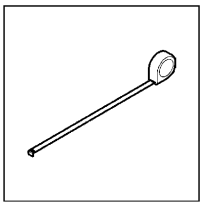
アンカー
… 1ケ



ハンマー
… 1ケ



チリ吹き
… 1ケ



スケール
… 1ケ

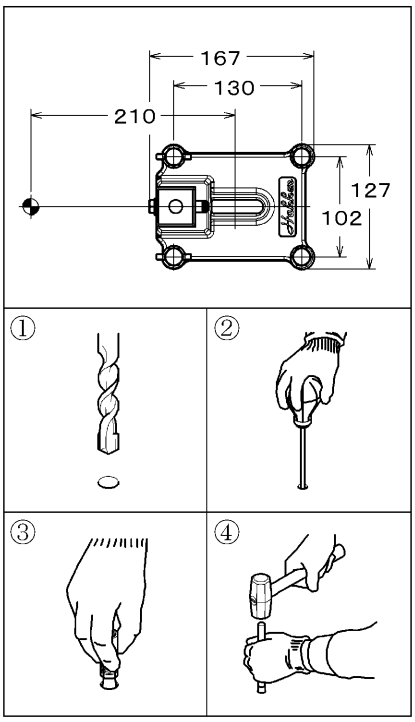
① 穴あけ位置から210 (+15,-11)mmの位置に、ハンマードリルで下穴をあけてください。

アンカー	W3／8	W1／2
キリサイズ	14.5mm	18mm
穴あけ深さ	55mm	65mm

② チリ吹きで穴の中の切り粉を排除してください。

③ アンカーを穴の中に挿入してください。

④ 打込みホルダーをしっかり保持して、ハンマーで打込んでください。

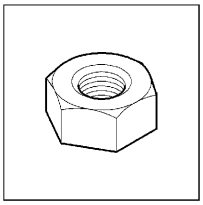


⚠ 警 告

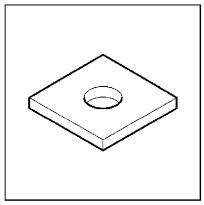
1. 下穴の中に切り粉が残っている場合や、打込み不足は、アンカーが抜けやすくなり大変危険ですので、アンカー施工の知識のある方が施工してください。
2. アンカーは当社指定のカットアンカーを使用してください。

【2】コアドリルの設置

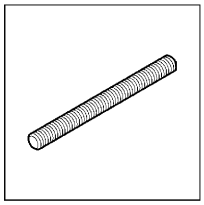
準備するもの



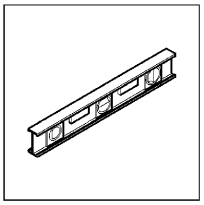
六角ナット
… 1ケ



角座金
… 1ケ



寸切ボルト
… 1ケ

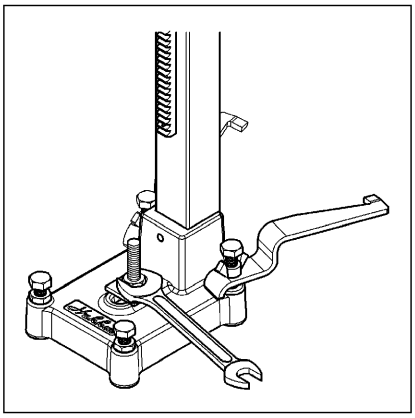


水準器
… 1ケ

⚠ 注 意

コアドリルをキャリングケースから取り出す時は、必ずロックダイヤルを「LOCK」にしてください。

1）寸切ボルトをアンカーにねじ込み、ポールベースを設置し、スパナ等で六角ナットを締付け、仮固定してください。



⚠ 警 告

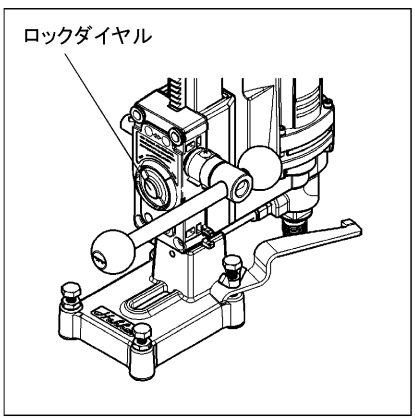
1. 寸切ボルトは、5山以上ねじ込んでください。ねじ込めない場合は、ねじ部に傷などがありますので、寸切ボルトを交換するか、アンカーの打ちなおしを行ってください。
2. ポールベースが倒れないように、しっかりと支えて作業してください。

2）ワンタッチハンドルをドリルヘッドに取付けてください。

ポイント

ご使用前に必ずクランプ調整を行ってください。（本書「定期点検」を参照）

3）ロックダイヤルを「FREE」にし、送りハンドルを回してメインシャフト先端が穴あけ面にあたるまでドリルヘッドを移動させ、ロックダイヤルを「LOCK」にしてドリルヘッドを固定してください。

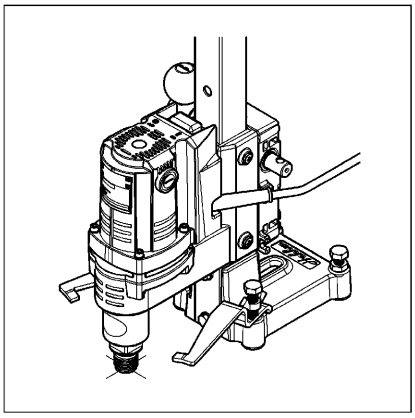


⚠ 注 意

送りハンドルから手を離す時は、必ずロックダイヤルを「LOCK」にして、ドリルヘッドを固定してください。

4）スパナ等で六角ナットをゆるめ、ポールベースを移動させ、メインシャフトと穴あけ位置を合わせてください。

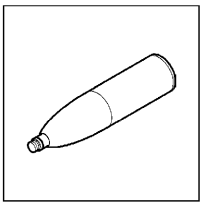
5）ポールベースがガタ付かないように、レベルボルトでレベル調整を行い、調整後は、スパナ等で六角ナットを締付け、ポールベースを固定してください。垂直・水平の調整は、ポールに水準器などをあてて行ってください。



⚠ 注 意
ポールベースがガタ付く場合は、再度レベル調整を行ってください。

【3】コアビットの取付け

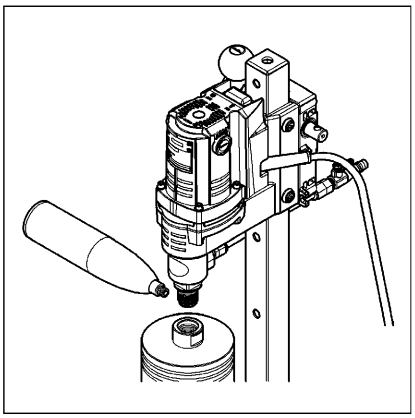
準備するもの



グリース
… 1 ケ

1）ロックダイヤルを「FREE」にして、ドリルヘッドをポールの上端付近にくるよう送りハンドルで移動させ、ロックダイヤルを「LOCK」にして、ドリルヘッドを固定してください。

2）メインシャフトのねじ部にグリースを少量塗布してください。コアビットをねじ部の根元までねじ込んでください。



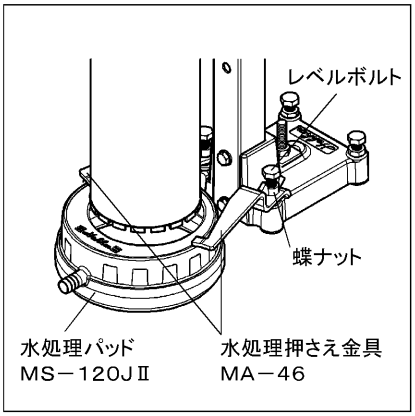
⚠ 警 告
コアビットの取付け・取りはずしは、必ず電源コードのプラグを電源から抜いて行ってください。

⚠ 注 意
1．コアビットを取扱う時は、ゴム手袋を着用し、けがのないように注意してください。 2．コアビットが落下しないよう、注意して行ってください。

ポイント
コアビットをドリルヘッドに取付ける時、グリースを塗布することにより、作業後の取りはずしが容易になります。

【4】水処理パッドの取付け

◎ 水処理パッドを穴あけ位置にあわせて置き、水処理押さえ金具で押さえてください。押付け力の調整は、蝶ナットで行ってください。



⚠ 注 意

1. 水処理パッドおよび水処理押さえ金具は、コアビットに接触しないように設置してください。
2. 水処理パッドを壁面に設置する場合は、排水口の角度に制限があります。パッドの口穴から、水があふれ出ないよう注意してください。

【5】排水処理の準備

1. 床面の排水処理例

例 1）水処理パッドの排水口にバキュームクリーナーの吸引口を接続する方法。

例 2）水処理パッド・手動ポンプなどで、バケツに吸出す方法。

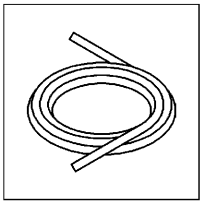
2. 壁面の排水処理例

例 1）水処理パッドの排水口にバキュームクリーナーの吸引口を接続する方法。

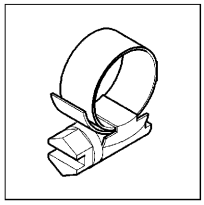
例 2）水処理パッドの排水口にホースを接続し、ホースの他方をバケツに受ける方法。

【6】給水の準備

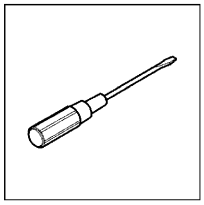
準備するもの



ホース
… 1ケ

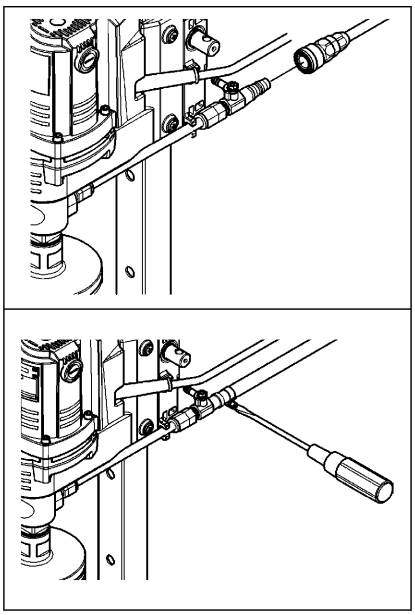


ホースバンド
… 1ケ



ドライバー
… 1ケ

◎ 給水コックを閉じて、 水道からのホースを給水用カプラーまたは、 ホースバンドで接続してください。

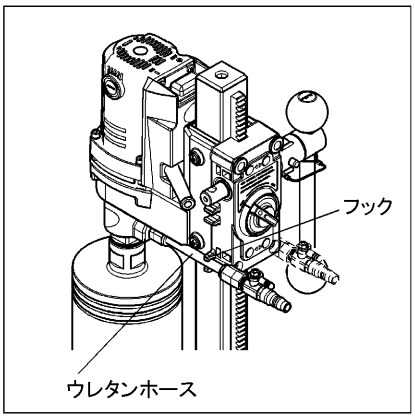


⚠ 注 意

1. コアドリルの破損の原因になりますので、給水は必ず清水を使用してください。
2. 穴あけ作業中に給水が止まらないようにしてください。

ポイント

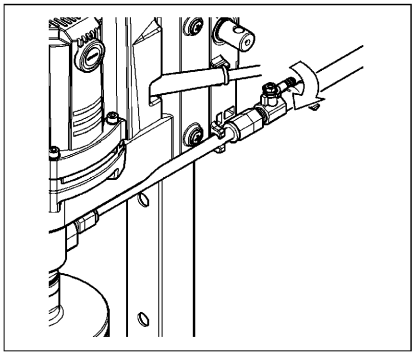
給水コックは、ウレタンホースの部分をクランプカバーのフックにはめ込んで、左右どちらでも固定する事ができます。



【7】穴あけ作業

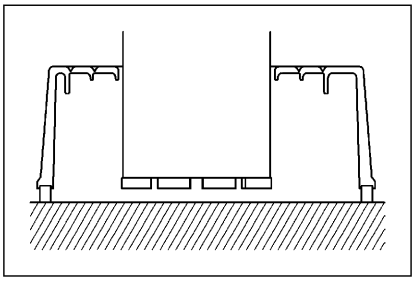
1）スイッチが切れているのを確認して、プラグを電源に差込んでください。

2）水道の蛇口をあけ、給水コックを徐々に開き、給水量を調整してください。



⚠ 注 意
1分間に2リットル程度、給水してください。

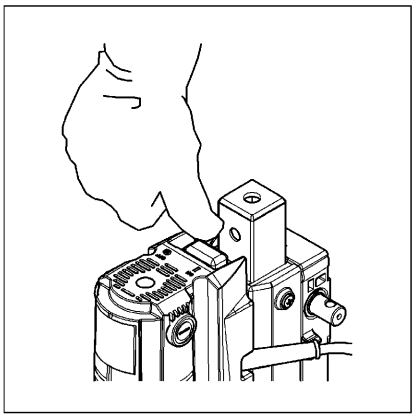
3）ロックダイヤルを「FREE」にして、コアビット先端が、穴あけ面から少し離れる位置にしてください。



⚠ 注 意
コアビットが穴あけ面に接した状態でコアドリルを起動させると、コアビットやコアドリルの破損の恐れがあり危険です。

4）スイッチを入れ、切込みを行ってください。

送りハンドルで、コアビットが穴あけ面に軽くあたるまで、ドリルヘッドをゆっくり移動させてください。
はじめは、5～10mmの深さまで軽く切込み、その後は一定の力で切込んでください。



⚠ 警 告
1. 音や振動などに異常のある場合は、ただちにスイッチを切ってください。 2. コアビット回転中は、モータ部の風穴をふさいだり、風穴に物を入れないでください。また回転部分に触れないでください。 3. 送りハンドルを急に回すと、コアビットが穴あけ面に強くあたり、コアビットやコアドリルの破損および事故などの恐れがあり危険です。

⚠ 注 意
送りハンドルに無理な力をかけると、コアビットの摩耗増加・切削能率の低下を招きます。

ポイント
サーキットブレーカが作動し、スイッチが切れた時は、いったん送りハンドルでコアビットを穴から抜出し、スイッチを入れなおしてください。

5）所定の深さまで切込んだら、給水を止め、送りハンドルでコアビットが穴から出るまでドリルヘッドを移動させ、ロックダイヤルを「LOCK」にしてドリルヘッドを固定してください。

⚠ 注 意
1．給水を止めたら、すぐにコアビットを穴あけ面から出してください。 2．コアビット内に残った水が飛散しないように注意してください。

6）スイッチを切って、プラグを電源から抜いてください。

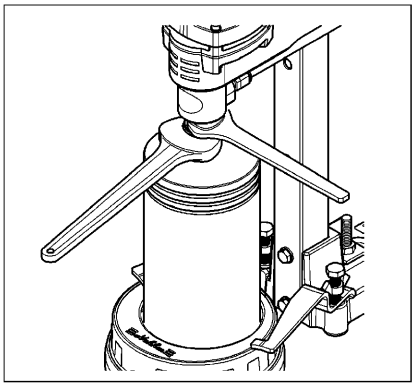
⚠ 警 告
1．プラグを電源から抜く時は、コードを引張らないでください。 2．濡れた手や手袋で、プラグ・電源に触れないでください。感電する恐れがあり危険です。

【8】穴あけ作業終了

1）ロックダイヤルを「FREE」にして、ドリルヘッドをポールの上端付近にくるよう送りハンドルで移動させ、ロックダイヤルを「LOCK」にしてドリルヘッドを固定してください。

2）給水用のホースをはずし、片口スパナを使用して、メインシャフトからコアビットを取りはずしてください。

3）水処理パッドをポールベースから取りはずしてください。



⚠ 注 意
水処理パッドを取りはずす時、水処理パッド内に残っている排水や、ヘドロが出てくる恐れがありますので注意してください。出てきた排水は、バキュームクリーナーなどで吸取ってください。

4）ドリルヘッドをポールベースから取りはずしてください。

5）ポールベースを取りはずしてください。

6）各部に付着しているノロや水気を取り除いてください。

7）ドリルヘッドをポールベースに差し込んで、キャリングケースに収納できる位置まで移動し、ロックダイヤルを「LOCK」にしてください。

8）ワンタッチハンドルを取りはずし、コアドリル（ドリルヘッド＋ポールベース）と水処理パッドをキャリングケースに収納にしてください。

ポイント
コアビットを取りはずした後、ねじ部にグリースを塗布しておくと、錆付き防止になります。

11. 作業中のトラブルと対策

【1】作業中のトラブルと対策方法

作業中に異常を感じたら、ただちにスイッチを切って、安全な状態で、下表にて原因の調査を行ってください。

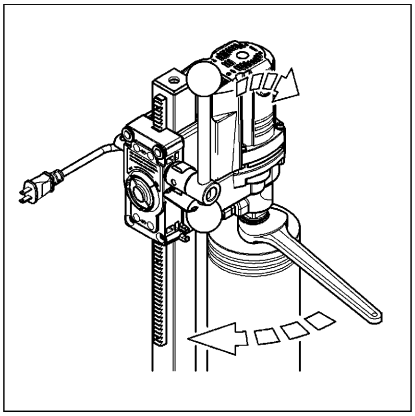
トラブル	原 因	対策方法
コアビットの回転が止まった	コアビットがロックした	「コアビットがロックした」の項を参照
	ギヤボックス部の故障	修理
	モータが停止した	「モータが停止した」の項を参照
コアビットがロックした	鉄片または切り粉などが、切削コアとコアビットの間に挟まっている	本書「コアビットがロックした場合の解決方法例」を参照
	セリが発生した	「セリが発生した」の項を参照
モータが停止した	スイッチの保護機能が作動した	「スイッチの保護機能が作動した」の項を参照
	カーボンブラシの異常	本書「定期点検」を参照
	モータ部の異常	修理
振動が大きい	切削コアが折れている	切削コアをコアビットから取出す
	ドリルヘッドのクランプ調整不良	本書「定期点検」を参照
	ポールベースのアンカー固定不良	再固定
	ポールベースのレベル調整不良	再調整
	メインシャフトの芯ブレ	修理
	コアビットの芯ブレ	新品交換
電源ブレーカが作動した	電源容量が小さい	電源容量を大きくするまたは、切込み力を弱くする
	故障	修理
スイッチの保護機能が作動した	切込み力が強すぎる	切込み力を弱くする
	モータ／スイッチの故障	修理
	振動で作動することがある	「振動が大きい」の項を参照
	スイッチ付近の温度が高い	温度が50℃を越えると、スイッチが切れやすくなるので、一旦作業を中断し温度が下がるようにする
切れ味が悪い	鉄筋を切削している	－
	給水量が多い	給水量を少なくする
	電源容量が小さい	電源容量を大きくする
	コアビットの目づまり	最寄りのコンセック各営業所に相談
	コアビットが摩耗している	新品交換
	セリが発生した	「セリが発生した」の項を参照
セリが発生した 本書「コアビットにセリが発生した場合の解決方法例」を参照	切り始めに強く切込みすぎた	－
	切込み力が強すぎる	切込み力を弱くする
	給水量が少ない	給水量を多くする
	振動が大きい	「振動が大きい」の項を参照
	ポールベースが曲がっている	修理
	コアビットが摩耗し、切削ミゾが細くなっている	新品交換

＊セリ… コアビットのボディー側面がコンクリート面に接し、 回転の障害となること。

【2】コアビットがロックした場合の解決方法例

⚠ 警 告
万一の事故を防止するために、スイッチを切って、プラグを電源から抜いてから行ってください。

◎ 片口スパナでコアビットをゆっくり回転させ、コアビットが抜ける位置を探りながら、送りハンドルでドリルヘッドを少しずつ引抜き方向に移動させ、穴あけ面より抜いてください。



⚠ 注 意
送りハンドルに無理に力をかけると、 1. コアドリルの故障・破損 2. コアビットのチップの脱落 が起こる恐れがあります。

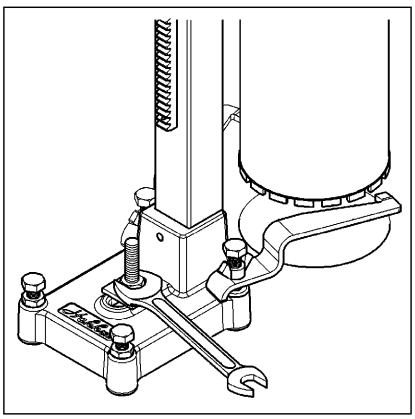
【3】コアビットにセリが生じた場合の解決方法例

⚠ 警 告
万一の事故を防止するために、スイッチを切って、プラグを電源から抜いてから行ってください。

1）ポールベースの固定をゆるめ、セリの少ない位置に微調整し固定してください。

2）セリの部分を取除くため、コアビットを回転させ、穴の口元よりゆっくりと切込んでください。

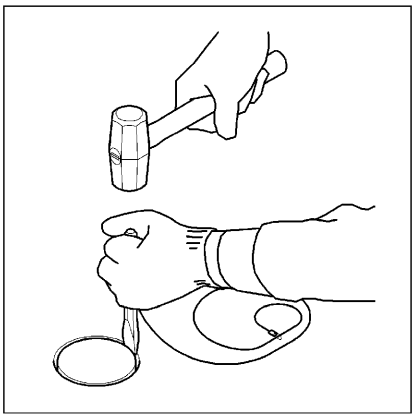
3）1）、2）を繰返し行ってもセリが解消されない場合は、穴あけ位置を変更するか、大きいサイズの穴あけを行ってください。



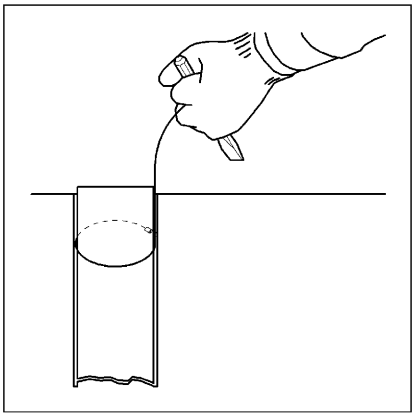
12. コア抜きワイヤーの使用方法

◎ 切削コアの抜取り方法の一つとして、コア抜きワイヤーによる方法があります。

1）切削溝に、コア抜きワイヤーのタガネ部分を差込み、ハンマーでたたいて切削コアを折ってください。



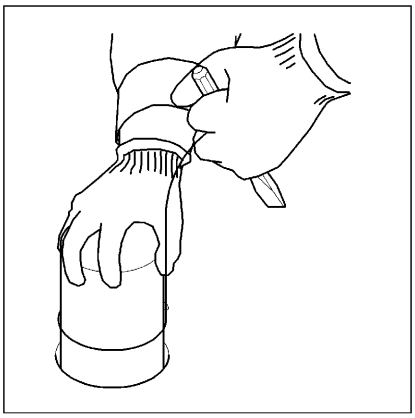
2）切削コアが穴の中でぐらつくようになったら、コア抜きワイヤーのワイヤー部分を輪にして、切削コアにかけてください。



ポイント

ワイヤーをできるだけ切削コアの奥にかけると、切削コアが抜きやすくなります。

3）コア抜きワイヤーをゆっくりと引上げて切削コアを抜いてゆき、切削コアが手で持てるようになったら、手で切削コアを持って抜いてください。



⚠ 警 告

1. コア抜きワイヤーで、切削コアを高く吊り上げないでください。
2. コア抜きワイヤーは、コア抜き以外には使用しないでください。

13．保守 ・ 点検 ・ 修理

【1】保 守

1）作業後は、 表面の清掃を行ってください。
ドリルヘッドの外枠は、 ギヤケース部がアルミ製で、 モータ部が強靭な合成樹脂製です。
モータ部外枠に、 ガソリン・シンナー・石油・灯油類を付着させると、 表面を痛めます。
モータ部外枠の清掃は、 乾いた布か石鹸水を付けた布などで拭いてください。

2）モータ部の保守
使用後は、ドリルヘッドをポールベースに固定して、 モータを無負荷運転させ、 内部のゴミ・ほこりなどを排出してください。

【2】点 検

◎ ドリルヘッド・ポールベース・水処理パッド・水処理押さえ金具・コアビットに、 亀裂・破損はないか、 またコード被覆部・プラグに、 亀裂・損傷はないか点検してください。
異常があった場合、 最寄りの「販売店またはコンセック各営業所」にお問い合わせください。

【3】定期点検

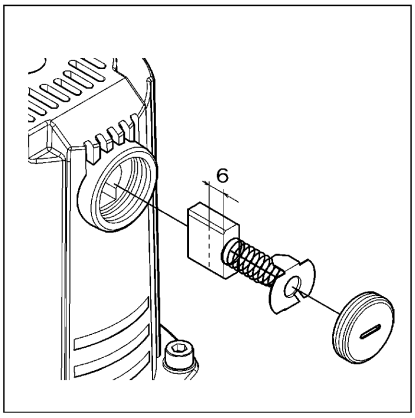
1. 各部取付ねじの点検

◎ 各部取付ねじのゆるみなどを定期的に点検し、 ゆるんでいる所は締めなおしてください。

⚠ 注 意
ゆるんだままで使用すると、事故などの原因となり大変危険です。

2. カーボンブラシの点検・交換

1）点検方法
○ カーボンキャップをマイナスドライバー（2番）などではずし、 カーボンブラシを取出します。 点検後は、カーボンキャップをしっかりと締付けてください。



2）点検項目
○ カーボンブラシの摩耗が大きくなると、 モータ故障の原因となりますので、 定期的に点検し、 長さが摩耗限度線（6mm）くらいになりましたら、 新品と交換してください。
○ カーボンブラシはきれいにして、 ブラシホルダー内で自由にすべるようにしておいてください。

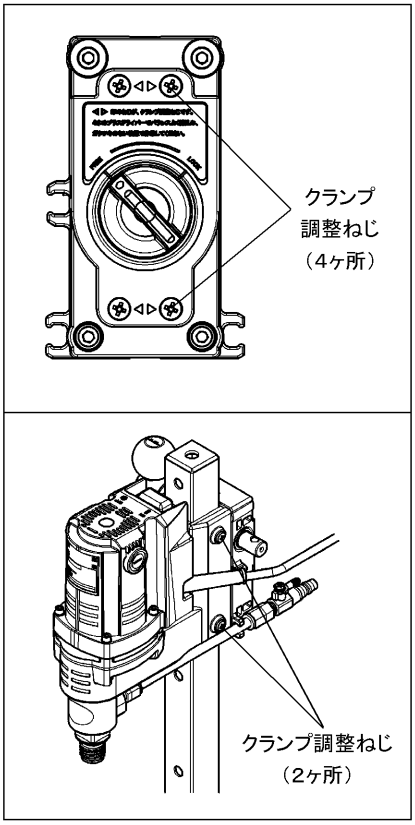
⚠ 注 意
当社指定のカーボンブラシを使用してください。

3. クランプ調整部分の点検・調整

◎ 送りハンドルを動かしながら、プラスドライバー（3番）でクランプ部の 6ケ所のクランプ調整ねじをバランスよく締込んでゆき、ポールとクランプとのすきま調整を行ってください。

ポイント

1. クランプ調整ねじを強く締込みすぎると、送りが重くなります。
2. スライド面が摩耗してガタが生じてきましたら、調整が必要です。



4. グリスの交換について

◎ 本機にはグリスが封入されています。本機を長持ちさせるために、1年ごとにグリスの交換をお勧めします。その際に、廃棄処理等の問題もありますので、最寄りの「販売店またはコンセック各営業所」にお問い合わせください。

【4】修理について

◎ 本機は厳密な精度で製造されています。したがって、もし正常に作動しなくなった場合には、決してご自分で修理をしないで、最寄りの「販売店またはコンセック各営業所」にお問い合わせください。

◎ その他、取扱い上でご不明な点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

14．製品の保管

製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、 下記のような場所は避け、 安全で乾燥した場所に保管してください。

◇お子様の手がとどいたり、 簡単に持ち出せる場所
◇鍵のかからない場所
◇軒先など雨がかかったり、 湿気のある場所
◇温度が急変する場所
◇直射日光のあたる場所
◇引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所には保管しないでください。

本取扱説明書に記載されている商品の外観などの一部を予告なく変更している場合があります。

メ　モ

株式会社コンセック

本　　社　〒733-0833 広島市西区商工センター4－6－8
TEL (082)277-5451　FAX (082)278-6389
第二事業本部　TEL (082)277-5452　FAX (082)278-6389

型式名	SPJ－122C SPJ－122M	検　印
製造番号		